

# 寺崎組新聞

第三十九号

## 「崖の下のペイ」 令和三年天竜組会記

189 回組会報告

レイド三瓶です。今回は、私が担当をさせていただきます。

当日一日目、富士山は隠れていたものの、天候は良く下道で閑散とした箱根を越える。増設したウインドスクリーンは効果を発揮し、首の疲れを軽減。ヘルメットの風切り音も無くなり、ヘルメット内のオーディオ音も弾む。しかし、足元からのエンジン音も、良く聞こえるようになったのは1回目の誤算であった。ゆっくりとしたせい、このまま下道だと言間に合わないことに気がつき、新清水より新東名に入る。エンジン快調！ばびゅんんと集合地点手前のエネオスにイン。



さて、お待たせいたしました。やっと集合場所に辿り着きました。参加者は、組長(KLR250)ゴ三浦さん(XLR80) 地下鉄さん(WR) 北脇さん(DR) カバさん(KTM) 尾形さん(ジェベル) 村松岡さん(カブ125) 山田石油さん(レイド) ロッカーさん(DIO50) 三瓶さん



イドの10名と今回もお見送りに来た、サンダー杉山さん(XRバハ)が集合場所の遠鉄ストア(天竜店)に集合した。(杉山さんお土産ありがとうございました) 私は、12時半頃の到着でしたが既に、チェーンの緩み事象、エンジンから不調な事象が勃発していったらしいのですが、その後起こる事件と比べると、薄くなってしまうことは、まだ誰も知らない。昼食、買出しを済ませ、杉山さんとお別れをし、天竜の山中へいざ出発する。



3回目の誤算だった。組長、尾形さん私の順で快調に進んでいると、

よつとバランスを崩した隙に、雨水の轍か？大きな石か？フロントタイヤにヒットしたその刹那！レイド号は暴れ馬の如く、ガレ場の上り坂でウイリウリし、そのまま左側の崖へ騎手を乗せたままダイブする。木漏れ日と、青空が見えたのを筆者は鮮明に覚えている。あら？と思いつながら、レイド号から降り落ち離れ、斜面をゴロゴロ。幸い、木にもヒットせず、切り株にも当たらず、笹もクツションとなり、多少膝が痛いくらいで(家を出る前、玄関でパンツに入らなかつた膝パットを置いてきていた。誤算4回目) 身体には大きな痛みは無かった。崖の下からペイは、無事のアピールを後続の組員方に伝え、ザックを崖の上に置く。すかさずカバさんから、転倒直後はアドレナリンが出て痛みが分らないから、深呼吸して落ち着いて！の一言で深呼吸。レイド号に目を向けると、さつきまで満タンだったタンクから、またもや給油口から漏れている。調整した右側ミラーは破損。プラのナックルガードはビスだけを残し吹っ飛ばす。(一週間前、ミラー調整時にガードの角が欠けたため、接着剤で補修していたが、もろとも吹っ飛ばす) ETC、スマホはそのまま無傷だった。



崖上の人達は、崖下の放心状態なペイを見かね、組員総出でレイド救出作戦を開始された。北脇さんの「荷物を外しちやおう。ゴム紐がタイヤに絡んだら目も当てられんわ！」の司令官のような的確な号令を皮切りに、山田石油さんは、さつきとハンドルを握り方向転換、すかさずセルボタンを押すと、リチウムイオンバッテリーから発せられた電流は、セルモーターをガンガンに回し何とか点火！村松岡さんが崖に復旧状況を記録に収め、ゴ三浦さん地下鉄さんをレイド号を引き上げ上げた。すると、見事崖の上に生還したのであった。全員総出の救出劇だった。プロジェクトX!

本当にありがとうございます！大きなバイクの損傷も見当たらない為、荷物を再び結び付けもう一度深呼吸からの出発。転ぶことはしよつちゅうだが、ウイリウリで崖に落ちたのは初体験であった。組旗だつたのは初体験の長ネギは、無残な姿に吹っ飛んでいった。誤算6。やつの思いで、組長と尾形さんに合流し事の顛末を説明。全員が分岐地点で揃ったため、ちよつとした休憩かな？と勘違いしたペイは、そう言えば煙草

吸って無いな？とおもむろにタバコに火をつけた5秒後、組長はヘルメットを被る。申し訳ございません。そそくさと灰皿へ。誤算7。一行は、更に山中に分け入り緑の苔むした広場で休憩する。ここで、増設したウインドスクリーンはザックへしまう。昔でフカフカだったので、テン場には良いかも？と思いきや、雨が降るとびしょびしょだよとの一言で納得。



休憩後もしばらく走る。心なしか？崖落ち事件のせいかな？1日目にしては結構走っているなと思つていると、「熊」の看板が出現。「に注意」が消えたのか？と思つたら「くま」との地名だよと教えてくれた。針のような松葉の藪漕ぎを終えたと今夜のいや、今回の野宿地に16時過ぎ到着する。さつきとテントを張り、ドカシューターバイクを考慮した陣形でベグダウン。バイクで周囲を囲みタープのアンカーとした。そうです。今夜から明日までは、100%の降水確率で警報も発令されること。よつて、各自万全な雨対策を備えたつもりだった。宴会開始は定かではないが、まだ空も明るく、雨が降りだす前であった。ケガが無かつたことを、山の神にも感謝しつつ陣乾杯。いつものように、10人のコック長から自慢のつまみが回り出す。今回ペイコック長は、マイブームの中華をお見舞いすることとした。当初、中華鍋と中華お玉をザックに忍ばせようと企んでいたが、確かに背骨とお玉は折れていた。確かに、いつものフライパンで、トマトと卵の中華炒めと黒はんぺんのごま油炒め、析尾のあぶらげ焼きをつまみに回しました。崖落ち直後、実は背中の中の生卵が気がかりで、現場の救助隊を目的にして卵を確認するのどうしようかと思ひ、平然と装っておりましたが、析尾のあぶらげと黒はんぺんに守られ、無事料理に使えたのが何よりであります。宴会の話は悪かつたら酒も飲めなかつただろう

ゴ三浦さんより、マニユピレター1の称号を授かったDJ三瓶は、安パイの尾崎紀世彦、キャンディーズ、あずさ2号、夢想花等々昭和歌謡を連投し圧勝する。がしかし、これも優しい村松岡さんのご配慮と筆者は推測するのである。雨が降り出したことにも気が付かないほど盛り上がり、1日目の宴会はお開きとなったが、お開き直前に山田石油さんが、桑田佳祐モノマネを見たことは、私の心の中に深く留めておくことを決めた。1日目の夜は雨音を子守歌にシユラフへ入るのであった。

翌朝の二日目。雨音と尿意で目を覚ます。また飲みすぎたしまったことを反省する。テントからの尿意しかも豪雨。テントから出たは尿意しかも豪雨。テントの外で出さねばならない！朝葛藤する。カッパを着て傘をさす。そのまま、宴会場兼朝食会場へ。いづもなら大体のメンバーが揃う時間だが、出足が遅い。そして、一人また一人とテントの浸水を訴えながら、ゆつくりとテントから這い出てきたのである。なぜだ？筆者はやつとここで感ずいた。連泊だ！大雨でも走らないぞ！と皆口では言わなくても、いびきで共鳴していたのだ。

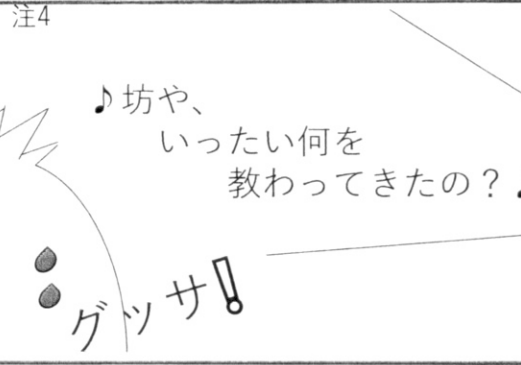
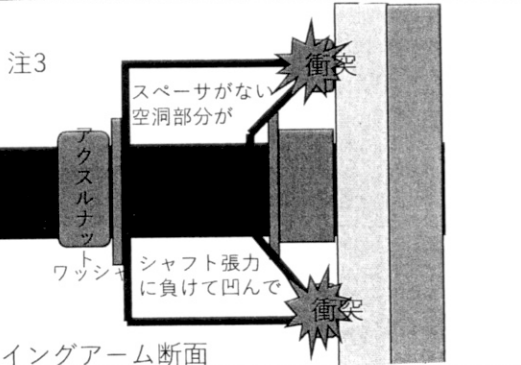
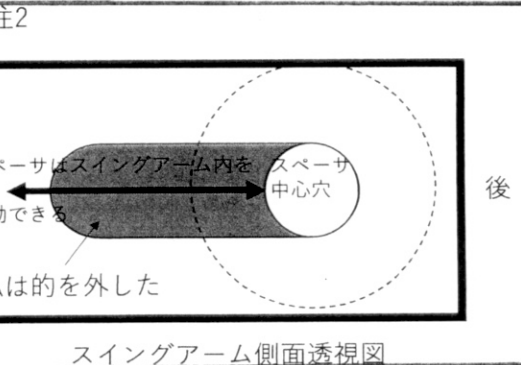
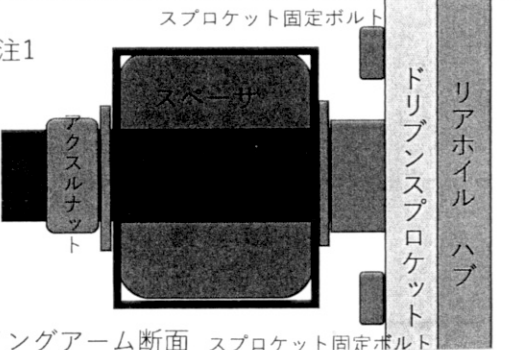


雨雨土砂降こね  
どいざびしがたね  
もつた変化ごたね

酒は飲み尽くし、料理の材料も自分の飯の分しか残っていない。この豪雨の中、砂利道を下界に降りる勇気も力も無い。2泊する組員のほとんどは、酒とつまみが枯渇した状況で錯乱状態。しかし、ただ一人この状況をタイムマシーンで見たかのようになり、北脇さんは酒も食材も二分購入していたのである。錯乱した私達を横目に、優雅に朝食を取っているように私は見えた。仙人のように、霞を食べていたのかもしれない。

このリスク管理の緻密さは、今まで日本を守っていた人だからこそなのだ！と二日酔いとパンツが濡れた豪雨の中で、筆者は一人確信したのであった。錯乱状態から冷静さを取り戻し、2泊する者たちは解決策を絞り出す。①今日帰る人にお使いを頼む②ウーバーイーツに座標を送ってみる③有るもので何とかする④阿部さんを呼ぶ等合議を重ねた結果、2名の決死隊を結成することとなった。作戦はこうだ。決死隊2名は、まずバイクで軽パンのデポ地へ向か

技術解説 グラウ上ルくん by エリ



その後、車に乗り換え下山。スパーで買出し後、野営地へ車で戻ると言う過酷で実に緻密な作戦が立案された。問題は人選である。ロツカーさんがお酒を飲まない人にお酒を買わせるのは忍びないと、ゴ三浦さんと地下鉄さんが自ら手を挙げてくれた。ここに「食料(主に酒)調達決死隊」が結成された。感謝を伝えると共に酒の魔力いや、偉大さを感じたのは言うまでもない。

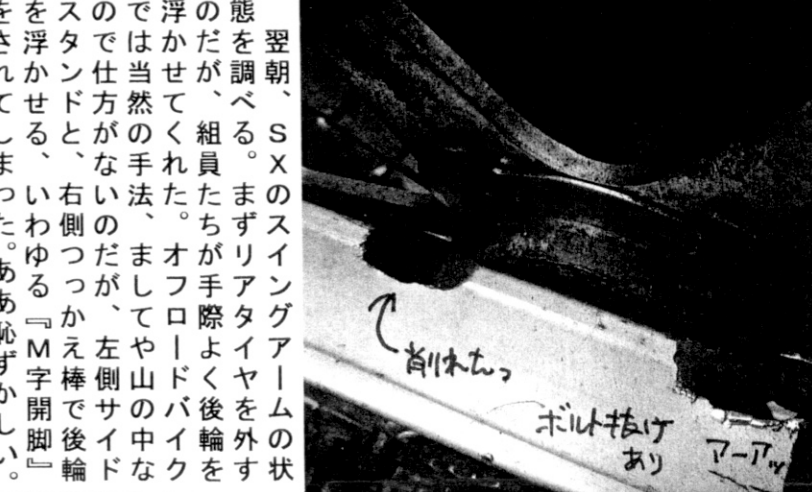


三日目の朝、風でドカシーが激しくテントを叩く音で起き起こされた。いち早く豪風の中、対応して何人かの足音も聞こえる。テントから這い出ると、見事にドカシーが吹くように、崩壊し片付けられていた。バイクはいつものように、タープのロープはバイクに括り付けていたので、皆起き出すと、挨拶と共に浸水の報告。特に被害が酷かったのは、尾形さんであった。どうだろうか？ シュラフが水を吸い込んだり、重くなり、5kgくらいになったようです。塾費もびしょ濡れの千円札を地下鉄さんに渡し、濡れを千円札を地下鉄さんに渡したことを祈り致します。

三日目の朝、風でドカシーが激しくテントを叩く音で起き起こされた。いち早く豪風の中、対応して何人かの足音も聞こえる。テントから這い出ると、見事にドカシーが吹くように、崩壊し片付けられていた。バイクはいつものように、タープのロープはバイクに括り付けていたので、皆起き出すと、挨拶と共に浸水の報告。特に被害が酷かったのは、尾形さんであった。どうだろうか？ シュラフが水を吸い込んだり、重くなり、5kgくらいになったようです。塾費もびしょ濡れの千円札を地下鉄さんに渡し、濡れを千円札を地下鉄さんに渡したことを祈り致します。今回の反省点は、①驕れるもの、②いいだろう、大丈夫だろうがケガの元③さらなる軽量化。を踏まえ令和三年度林道走行に挑みたいと思えます！ 長くなりまして、令和三年天竜組会記(全米が泣いた)「誤算だらけの崖の下」のペイ救出大会！ は、これにておシユウマイ！ とさせていただきます。

令和三年春 小武川宴会私的報告

190回組会報告



下伊那の実家をスタートし、諏訪湖を過ぎた辺りで足元からの「カリカリ」という異音に気が付いた。旋盤でアルミ材を削るような音だ。嫌な予感がして富士見のコンビニの駐車でチェックすると、SXのスイングアームがえらいことになっていました。本当にやっちゃったよプレイバツクの笑みとともに撮影していた写真の笑みとともに撮影していた写真を見て絶対掲載されるはず」を輪脱落でシャレにならないことにな

翌朝、SXのスイングアームの状態を調べる。まずリアタイヤを外すのだが、組員たちが手際よく後輪を浮かせてくれた。オフロードバイクでは当然の手法、ましてや山の中なので仕方がないのだが、左側サイドスタンドと、右側つかえ棒で後輪を浮かせる、いわゆる「M字開脚」をさせてしまった。ああ恥ずかしい。リアアックスルを引抜いてみるとスイングアームがガッツリと削れた原因が分かった。SXのスイングアームはコスト削減のためアルミ角パイプでできており、その中に納められたスペーサー(鉄)でできたチクワの輪切り)の強度でリアアックスルの張力に耐える構造になっている(注1参照)。漫画ファンの方々に「注2参照」問題はそのスペーサーが前にリアブレーキシューを新品に換えた際、スペーサーの穴をうっかり外してアクスルを通し直し、クソトルクで締めあげてしまった結果(注3参照。漫画ファンの方々に「注4参照」またかよ)、垂直に押す力には弱い角パイプ側面が潰れ、ドリブンスプロケット固定用のボルトと接触するようになった(注3参照。漫画ファンの方々に「注4参照」)。完全に私的なヤツいるのか？。完全に私の不注意だ。SXよすまん。

天竜組会一人一言 ●雨で、テント、シュラフ、ずぶ濡れでした！酒も、飲みすぎで、迷惑かけてすみませんでした。(オガタ) ●1人だと悲惨だったろう大雨も組会だと楽しめました！(ロツカー) ●記録的豪雨の野宿、バイク落下、忘れられない組会になりました。あと、スクーターでの林道走行大変でした。これで塾に来るロツカーさんは変態です(褒めてます)(地下鉄) ●買い出し決死隊、トランプのデポ地まで、暗くて川のような道がとても長く感じました。(ゴ三浦) ●久々の雨の組会でした。土砂降りの掃路の辛かった事。カッパはさっさと着なきやダメですね！(カバ) ●老犬介護のため連泊が不可能となつていますが地元で荒天停滞連泊出来たとしても(村松岡) ●土砂降りの中の野宿は中々痺れました。(北脇)

小武川組会一人一言 ●泣く泣くの一泊参加。京都から下道自走、スプロケットボルト事件、新入さん来訪、鉄スクーターレストア、中華鍋持参など、今回も濃い小武川を満喫しました！あざっす！。(サンペイ) ●2日目からの参加で久々の昼着でまったり過ごさせてくださいました。地下さんに代わりまして天ぶら担当の大役と焼き鳥屋さん、阿部さんとのカラオケと楽しめました！(笑)。初お地蔵さんとなつてしまいました(笑)。六川さんにご迷惑をおかけしてしまいました(汗)皆さま飲み過ぎ注意しましょう！。(ひらりん) ●旅の濃さは速度に反比例すると言ふ事を、身をもって実感しました！。(北脇) ●二輪車での参加者が減って、寂しい限りです。(アベ) ●2年ぶりのコンバットキャンプ地、2年分の倒木で焚火は燃やし放題。焚火を十分堪能できました。(地下鉄) ●行きはカブ、帰りは軽トラでモリシタさんとドライブでした！(ロツカー) ●食器棚を完全に焼却できて、あー、良かった！。(ゴ三浦)



記 ヤキツキモリシタ 翌5日、結局JAFは呼ばず、私のために運搬車を取りに自宅まで往復して下さった六川さんのおかげで何とか帰宅出来ました。ありがとうございました。そして皆さん、ご心配おかけしました。

編集後記 ●モリシタ「大変御迷惑をおかけしました。地下バックヤードの取り止めの折り返し、ゴ三浦「スプロケットの取り止めの折り返し、〇型「家の都合で参加できません。見てください。」